



「多久から発信！SDGs」

「食品ロスはもったいないだけじゃない」

「食品ロス」が日本で問題になっています。食べられるのに捨てられることは、もったいないだけではありません。

まず、食品ロスはどれくらい多いのでしょうか。国内の食品ロスの量は、年間約472万トンで、1人当たり毎日1個のおにぎりを捨てていることになりました。家庭では約236万トン捨てられているそうです。私も食べ残しをしたことが何度もあります。そして、事業系でも約236万トン捨てられているそうです。飲食店などで、頼む前は食べられると思っていても、頼みすぎてしまって食べられないといったことがよくあると思います。

このような食品ロスは環境問題につながります。例えば、森林破壊や野生動物の生息数の減少です。森林が破壊されると地球温暖化の加速にもつながります。だから、食品ロスをこれ以上増やしてはいけません。

また、地球環境のほかに、経済への影響もあります。毎年2兆円以上の税金が廃棄処理のためにかかっています。食品ロスが減れば税金も安くできるのかもしれない。

以上のことから、家庭では買い物の工夫や残りのリメイクなどを行ったり、飲食店では食材の注文を調節したりすることが食品ロスを減らすために必要だと思います。

東原岸舎西溪校

8年1組 一ノ瀬結衣



多久市の指定文化財(18)

「圓通寺の逆修六地藏」〔市重要文化財〕

西多久町大字板屋七一〇三番地(圓通寺)

前回に続いて西多久町藤川内区の圓通寺墓地、多久家墓所の文化財を紹介いたします。墓所前の石段を上がると大門と呼ぶ入口の石門があります。大門の手前左右両脇に多久家の上級家臣の石井家、蒲原家によって建立された六地藏塔型の逆修供養塔が2基所在します。六地藏塔は肥前を代表する石造物の形態で二石のまわりに6体の尊像を彫刻し、上に笠石、尊像の下に中台、竿石、基礎石で構成されます。逆修とは生前のうちに死後の成仏を期待し仏事を修めることで、江戸時代初期にかけて武士の

間て盛んに行われました。正面左の供養塔は家老の石井三右衛門尉の造立で、慶長9年(1604)の銘があり、右の供養塔は領祖龍造寺長信の縁戚で多久入部した蒲原家の蒲原清左衛門尉の造立で、慶長11年(1606)の銘があります。

前回の龍造寺長信の逆修供養塔とともに、明日の命も知れない戦国乱世の戦いを経験した武士の思想と慣習を知るうえで重要であり、市内を代表する石造物として昭和61年に指定されています。

(教育振興課)



▶圓通寺の逆修六地藏(手前)



▶歴代の墓がならぶ多久家墓所

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ 八十路われ 絵手紙習う 仲間あり
時を忘れて笑顔はころぶ
梶原恵美子
- ◆ 神様が 僕に届ける ありがとう
僕は今まで生きててよかった
野崎 隆幸
- ◆ 世界の価値が 経済第一に傾く時
人間の心根と誇りを基礎に
尾形 節子
- ◆ 主なくし 久しき家の庭先に
ランタナの花ひそかに零れる
川浪 信子
- ◆ のんびりと 時間気にせずひとり旅
京の古刹を巡りてみたし
浦野 嘉恵

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆ 献立の 決まらぬ夜の 冷奴
富樫 明美
- ◆ 風鈴や 風のため息 受け流す
おおやはな
- ◆ 芋の露 朝日の中に 零れけり
武富 律子
- ◆ 藍浴衣 畳めば母の 匂ひして
本村 則子
- ◆ 峡谷を 走る水音 夏椿
大石ひろ女

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆ 幸せが やってきそうな 星月夜
松下 修
- ◆ 聞いてみよう 星はなんでも 知っている
井上 東子
- ◆ シーソーの 上下に笑う 夏園児
小副川ヨシエ
- ◆ 水とガス 空飛べるなら 熊本へ
田代えみこ
- ◆ 花生けて 心に涼を とりもどす
大谷 和